

2020年5月10日

心を騒がせるな

政府の緊急事態宣言が再び延長され5月末まで継続されることになりました。日々変化する特別な日常の中で、今日のヨハネ福音書におけるキリストの招きは「心を騒がせるな」（ヨハネ14・1）からはじまっています。さらに復活節中に朗読される使徒言行録では、厳しい迫害に耐えながらも原始教会がどのように生まれ、発展してきたのか、黙想することができます。

原始教会の中では「日々の分配のこと」（使徒6・1）で意見の対立があり、これをきっかけに霊と知恵に満ちた7人の仲間が選出され、神の言葉が広がり、ますます弟子の数が増えていったことが記されています。「日々の分配」とは貧しい人々への援助のことで、教会のはじまりからこのテーマがあったことを改めてわたしたちは学ぶ必要があります。そもそもギリシア語の「ディアコニア（奉仕）」という言葉が「日々の分配」の原語となりますが、元来は「食事の用意のための〈奉仕〉」を表していたということです。そこから少しずつ「みことばの奉仕」を表す用語になったと言われています。使徒たちの「ディアコニア（奉仕）」は「祈りとみことばの奉仕に専念すること」（使徒6・4）を意味しますが、この「任務」は現代に生きるすべてのキリスト者の「任務」（duty）でもあります。

2000年前の教会の歴史から学ぶことができる点は、神が人々を「暗闇の中から驚くべき光の中へ」（1ペト2・9）と招き入れ、イエスの弟子たちも常にピンチをチャンスに変えてきたということです。教会に迫害が起これば、「イエスの名のために辱《はずかし》めを受けるほどの者にされたことを喜び」（使徒5・40）、集まることができず「散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩きます」（使徒8・4）。「（それで、兄弟たち）わたしたちは、あらゆる困難と苦難に直面しながらも、あなたがたの信仰によって励まされました。あなたがたが主にしっかりと結ばれているなら、今、わたしたちは生きていけると言えるからです」（1テサ3・8）と力強く宣言し、イエスに結ばれるなら「決して失望することはない」（1ペト2・6）とペトロは呼びかけます。この言葉をしっかりと心に刻みたいと思います。

5月を迎えたわたしたちは、カトリック教会の伝統の中で聖母月をお祝いします。教皇さまも、パンデミック下のわたしたちが「家庭で祈ること」の大切さを強調し、以下のように「マリアへの祈り」を紹介しておられます。未知の感染症に

直面するわたしたちの長い巡礼の旅が、聖母マリアの取り次ぎによって励まされますように。 (<https://www.cbcj.catholic.jp/2020/04/30/20707/>)。

マリアへの祈り 一

聖マリア、
あなたは救いと希望のしるしとして、
いつもわたしたちの歩みを照らしておられます。
病人の希望であるあなたに信頼して祈ります。
あなたは十字架の下で、揺るぎない信仰をもって、
イエスと苦しみをともにされました。
「ローマの民の守護者」であるマリア、
あなたはわたしたちに必要なものをご存じです。
わたしたちはあなたがそれを与えてくださると信じています。
ガリラヤのカナでなさったように、
この試練の後に喜び祝うときが再び訪れますように。
愛である神の母マリア、わたしたちを助けてください。
わたしたちが御父のみ心に応え、
イエスのことばに従って生きることができるよう。
イエスはわたしたちの苦しみをその身に負い、
わたしたちの悲しみを引き受け、
十字架を通して、
わたしたちを復活の喜びに導いてくださいます。アーメン。
神の母聖マリア、
あなたのご保護により頼みます。
苦難のうちにあるわたしたちの願いを聞き入れてください。
栄光に輝く幸いなおとめよ、
あらゆる危険から、いつもわたしたちをお救いください。

カトリック立川教会 主任司祭
東京教区 ヨゼフ 門間 直輝